



長崎県立大学
UNIVERSITY OF NAGASAKI

長崎県立大学 国際社会学部
研究シーズ集
2024



～ 目次 ～

職名	氏名	タイトル	頁
国際社会学部 国際社会学科			
教授	井上 佳子	戦争と農村	1
教授	荻野 晃	中・東欧の国際関係の歴史的・理論的考察	2
教授	笠原 敏彦	英米政治とグローバル化世界	3
教授	唐津 理恵	ナショナル・シネマの形成に関する研究	4
教授	祁 建民	中国の政治社会の動向に関する研究	5
教授	賈 曦	持続可能な観光につながる情報発信	6
教授	周 国強	大学における中国語教育に関する研究	7
教授	鈴木 暁彦	現代中国における大衆思想の多様化と政治的民主化の課題	8
教授	吉光 正絵	持続可能な「地域力」としての「女性力」の発見に関する研究	9
		地域の持続的な活力源としてのポピュラー文化やライブ・エンターテイメントに関する研究	10
准教授	生田 和也	19世紀アメリカにおける可傷性の文学的表象	11
准教授	小原 篤次	技能実習生など移民研究	12
准教授	河又 貴洋	グローカリゼーションの社会情報経済学	13
准教授	平見 健太	経済の安全保障化と国際経済法の構造変化に関する研究	14
准教授	村上 昂音	持続可能な観光を通じた長崎県の地域創生	15
准教授	門部 昌志	コミュニケーションに関する研究	16
講師(特任)	W.マクドナルド	ストレスと言語学習心理	17
講師(特任)	B. マクドナルド	Research on Trends of Etruscan and Roman Art (エトルリアおよびローマ美術の動向に関する研究)	18

戦争と農村

研究分野: 社会学関連

キーワード: メディア・戦争・社会

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 井上佳子

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/inoue28/>

研究概要

昭和初期、日本が戦争に突入していく時代における、兵士の供給源となった農村のありようを研究。教育、暮らし、地域の結びつきがどのように総力戦に影響を及ぼしたのか調査している。また、兵士が戦死した際、村ごとに行われた「村葬」などの「メディア」が、戦争遂行に果たした役割についても調べている。

産学連携の可能性(アピールポイント)

外部との連携実績等

中・東欧の国際関係の歴史的・理論的考察

研究分野: 国際政治学、国際関係史、安全保障論

キーワード: ハンガリー、外交、安全保障、体制転換(1989年)、NATO拡大

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 荻野 晃

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/ogiaki/>

研究概要

ハンガリーをはじめとする冷戦期の東欧の国際関係史、ハンガリーの体制転換(1989年)当時の国際環境と対外政策、体制転換後の中・東欧の国際関係を専門に研究してきた。具体的には、冷戦期のソヴィエト・ブロック内部で起こった政治危機へのハンガリーの対応外交、体制転換当時の人の国際移動が国際情勢に及ぼした影響、体制転換後の中・東欧の北大西洋条約機構加盟と国防軍改革、政軍関係について考察した。

さらに、近年は2015年の欧州難民危機へのハンガリーの対応、2010年代以降のハンガリーによるロシア、中国との関係強化をはかる「東方開放政策」、新型コロナウイルスの感染防止策をめぐって生じたハンガリーと欧州連合との対立、ウクライナ情勢へのハンガリーの対応についての分析を行っている。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ①冷戦後の欧州と日本との安全保障政策の比較分析
- ②人の国際移動がもたらす国際情勢への影響
- ③新型コロナウイルス、ウクライナ情勢をめぐる各国の対応の比較分析

外部との連携実績等

冷戦後の中・東欧の民主的な政軍関係の確立、2015年の欧州難民危機当時の人の国際移動に関する講演

英米政治とグローバル化世界

研究分野: 英米両国の外交、安全保障政策、グローバル化世界の国際秩序

キーワード: EU離脱後のイギリス、英米関係、米中関係、インド太平洋、地政学

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 笠原 敏彦

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/kasahara/>

研究概要

EU離脱後のイギリスの国内政治がどのように変化し、いかなる独自の外交・安全保障政策を展開するのかという点を研究のベースとする。これを基に、イギリスと大陸欧州諸国との関係、歴史的な紐帯を持つアメリカとの関係の変化を多角的に分析し、イギリスが今後の国際秩序にどのような影響を及ぼしていくのかを考察する。

特に、21世紀の世界で焦点となる米中関係、インド太平洋地域の秩序にイギリスがどう絡むのかに関心を持つ。

産学連携の可能性(アピールポイント)

イギリスとアメリカの経済安全保障への取り組み、欧米社会のESG(環境、社会、ガバナンス)への取り組みについて理解を深め、企業活動に役立てる。

外部との連携実績等

一般社団法人「内外情勢調査会」などを通じた企業人への講演活動

ナショナル・シネマの形成に関する研究

研究分野: 文化人類学、メディア、ジェンダー研究

キーワード: 比較文化、映画論、ジェンダー

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 唐津 理恵

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/rkaratsu/>

研究概要

映画研究において、日本映画といった括りを前提にする「ナショナル・シネマ」という概念、あるいは枠組み自体が批判的に再検討されるようになって久しい。1980年代後半以降に、英国のアンドリュー・ヒグソンやオーストラリアのステファン・クロフツらによって、映画における「ナショナルなもの」が問題とされるようになった。日本映画についても1990年代中頃には、これまで日本映画がナショナル・シネマとして研究される際に陥りがちであった文化本質主義の問題に加え、ジェンダーの視点の不十分さが指摘され、これらを克服するための新たな理論と方法の模索が必要となってきた。

議論されている「ナショナル・シネマ」という概念は、単に一国で製作され、その国の文化や国民性を反映していることを自明とするのではなく、むしろ映画を通して構築されるものとして研究の対象とする。このような観点を踏まえ、今後の研究においては、「ナショナル・シネマ」の形成についてジェンダーの視点を取り入れながら国際比較により明らかにしていく。日本と世界の映画を比較検証することによって研究のさらなる発展をめざしたい。

産学連携の可能性(アピールポイント)

外部との連携実績等

令和2年4月より、米国ジョンスホプキンス大学のBernadette Wegenstein教授、Lauren Mushro氏が率いるプロジェクト型の共同研究に携わった。本研究の一環として女性映像作家の河瀬直美氏、及びキム・ソヨン氏にインタビュー取材を行った。連携実績として、一章を執筆した書籍『Radical Equality and Global Feminist Filmmaking – An Anthology』(編者Bernadette Wegenstein, Lauren Mushro) がVernon Pressより令和4年3月に刊行された。

担当章タイトル: Water Imagery and the Feminist Subversion of Womanhood in Naomi Kawase's *Still the Water* (2014) and Soyoung Kim's *Sound of Nomad: Koryo Arirang* (2016)

中国の政治社会の動向に関する研究

研究分野: 社会科学、中国農村、水利、農民工、日中関係、中国近代史

キーワード: 社会学、地域社会、ジェンダー、農村、貧困、水利、環境

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 祁 建民

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/qjmjp/>

研究概要

中国政治社会について研究する。農村社会構造の変遷、水利環境問題、貧富格差問題、日中農村社会の比較、日中関係などに取り組んでいる。

産学連携の可能性(アピールポイント)

環境技術の輸出、農産品輸出、観光資源の開発

外部との連携実績等

「水と権力—中国の水利問題からオリエンタル・ディスポティズムの再検証—」(基盤研究C、研究代表者、研究者人数1人、平成24～27年度)

持続可能な観光につながる情報発信

研究分野:メディア学、観光学、地域研究

キーワード:持続可能な観光、コンテンツツーリズム アドベンチャーツーリズム

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 賈曦

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/jiaxi/>

研究概要

- ①世界でサステナブル・ツーリズムやSDGsの概念が受け入れられている中、日本のメディア、特にローカルメディアの対応、さらに自治体と連携するネットワーク・協力体制の構築に向けて研究に取り込む
- ②地域資源を観光コンテンツとして創出 コンテンツツーリズム、アドベンチャーツーリズムの可能性
- ③観光データの活用した事業モデルの提示
- ④持続可能な観光につながる情報発信

産学連携の可能性(アピールポイント)

自治体、経済団体、観光振興団体、観光関連を中心とした民間事業者の参画により、官民の枠にとれない組織が、メディアコンテンツを活用し、地域のインバウンドを拡大することにつながることを期待される。

外部との連携実績等

大学における中国語教育に関する研究

研究分野: 中国語教育

キーワード: 中国文学、中国語文法、中国文化

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 周 国強

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/zgg/>

研究概要

- ① 中国語語彙——量詞・ネット用語などの研究
- ② 中・韓・台文学の中における日本耽美派文学の影響
- ③ 日中文化比較

産学連携の可能性(アピールポイント)

外部との連携実績等

- ① 県立吉岐高校中国語遠隔授業講師
- ② 江戸時代において町人の美意識について(瀋陽航天航空大学・国際交流飢饉・北京日本文化中心)
- ③ 江戸時代の庶民思想と中国文化(遼寧省教育庁)
- ④ 儒学と日本の庶民思想(遼寧省社会科学院)

現代中国における大衆思想の多様化と政治的民主化の課題

研究分野:現代中国論

キーワード:中国 政治 民主化

貢献できるSDGsの区分:

国際社会学部 国際社会学科 教授 鈴木 暁彦

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/a5suzuki/>

研究概要

21世紀段階の中国大陸は、社会思潮が多様化しかつ複雑化している。21世紀中国におけるより多様な言説を分析し、現実との社会的緊張関係を探ることは、現代中国認識を議論する研究での重要な視座である。中国の自己認識を分析し、中国の現状と将来につながる展望を探り、その研究結果を公表することで、広く社会一般に、参考となる視点と情報を提供できると考えている。

産学連携の可能性(アピールポイント)

特にありません。

外部との連携実績等

特にありません。

持続可能な「地域力」としての「女性力」の発見に関する研究

研究分野: 社会科学

キーワード: 社会学、地域社会、ジェンダー

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 吉光 正絵

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/my/>

研究概要

「地域力×女性力＝無限大の未来」が、平成27年度「男女共同参画週間」^{※1}のキャッチフレーズとして提示され、日本各地の自治体では、多くの講座やイベントが企画・実施された。このキャッチフレーズは、コロナ禍を経た現在においても、持続可能な地域社会の成長を考える際に大切な視点をわかりやすく表現しているのではないかと考えられる。女性たちが何度も訪れたい、住みたいと思ひ、そこで楽しいと思える活動や自分らしく輝き活躍できる場があることが、少子高齢化が進み、人の移動が激しくなる現代社会において、地域共同体が存続していくための必要不可欠な要件であるからである。

本研究では、女性が何度も訪れたい、住みたいと思う地域社会に必要な条件を具体的に明らかにしたい。この場合、10代の若者を対象としたアンケート調査を実施するとともに、地域社会で活躍してきた女性たちを対象としたインタビュー調査も実施したい。そのことによって、地域社会がよりいっそう持続的に成長していくために必要な「女性たちから選ばれる力」を明らかにすることができると考えられる。

(※1 「共同参画」 2015年5月号 https://www.city.bungotakada.oita.jp/page/page_02586.html)

産学連携の可能性(アピールポイント)

観光産業の活性化や移住といった人の移動、女性や若者の雇用等にとりくむ企業や団体との有意義な連携が可能であると考えられる。

外部との連携実績等

「観光資源としてのライブ・エンターテインメントの「楽しさ」と課題に関する研究」JSPS 科研費(20K12405)による助成(2020年度から2022年度)

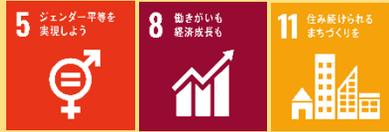
「新上五島町ポータルサイト『みっか』拡充事業」新上五島町と長崎県立大学との相互協力協定事業(2012年度)

地域の持続的な活力源としてのポピュラー文化やライブ・エンターテインメントに関する研究

研究分野: 社会学

キーワード: ポピュラー文化、ポピュラー音楽、メディア文化、ジェンダー、地域研究

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 教授 吉光 正絵

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/my/>

研究概要

- ①インターネットやソーシャルメディア、スマートフォンなどの普及は、世界中のメディア文化を手軽に楽しむことを可能にしました。現代では、好きなメディア作品の感動や自分なりのライフスタイルを発信し世界中の人々と共有することが可能になっています。
- ②これまでは、現代の女性たちがメディア作品や文化商品を利用して個性的で新しい遊びや楽しみを作り出し、国や地域を越えたネットワークを作り上げていることに関心を持ち、研究活動を行ってきました。
- ③代表的な成果としては日本の〈カワイイ〉文化、J-POPやK-POPといったポピュラー音楽を好む多様な国の女性たちのファン文化に関する研究があります。これらが多様な国や地域に住む若者たちの間で共有され相互に影響を与えあっていることを明らかにしてきました。
- ④現在は、地域の持続的成長のためのライブ・エンターテインメント観光の資源化に関する研究を行っています。



産学連携の可能性(アピールポイント)

エンターテインメント産業や観光産業は、コロナ禍によって大きなダメージを受けました。

しかし、人々の消費対象がモノからコトへと変化し、「楽しい体験」に価値を置く動向はより一層強くなったのではないかと考えられます。

こうした楽しい体験消費の主人公である女性たちの感性について実証的に研究することは、観光産業の活性化だけでなく、それをきっかけにした移住や国際交流といったより広範な人の移動、関連する産業の活性化につながると考えています。

外部との連携実績等

- ①「観光資源としてのライブ・エンターテインメントの「楽しさ」と課題に関する研究」JSPS 科研費(20K12405)による助成(2020年度から2022年度)
- ②「新上五島町ポータルサイト『みっか』拡充事業」新上五島町と長崎県立大学との相互協力協定事業(2012年度)

19世紀アメリカにおける可傷性の文学的表象

研究分野: 英語圏の文学・文化

キーワード: 弱さ、ケア、コミュニケーション

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 准教授 生田和也

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/ikut-kazu/>

研究概要

本研究は、19世紀アメリカ文学を「可傷性／脆弱性(vulnerability)」の観点から考察するものです。可傷性は21世紀になって学術的にも社会的にも多用されるようになった概念です。本研究では、理性的・自律的な「リベラルな主体」が政治・社会・文化の中心と想定されていた19世紀のアメリカ合衆国にあって、同時代の文学作品には相互依存的で可傷性を持つ「傷つきやすい主体」が多数登場することに注目しています。19世紀アメリカ文学作品における可傷性を(1)「他者と環境」、(2)「性・人種・階級」、(3)「ケアの倫理」の3つの観点から考察し、「傷つきやすい主体」の文学的表象を近代西洋思想に見られる「リベラルな主体」への文化的抵抗と位置付け、可傷性に基づいた新たな社会の在り方を希求する現代の学術的運動のなかで文学的想像力や文学研究が担う役割を示したいと考えています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- 英語圏の文学・文化の理解
- 異文化理解

外部との連携実績等

- 科学研究費助成事業「19世紀アメリカにおける可傷性の文学的表象」(2022-25)
- 長与町まち・ひと・しごと創生推進会議委員(2024-2025)

技能実習生など移民研究

研究分野: 人・資本と地域を結ぶ総合研究
キーワード: 社会学・政治学・経営学・経済学

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 准教授 小原篤次

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/ohara2012/>

研究概要

- エリア: 大都市、地方、国内・海外と調査対象、研究拠点を経験してきました。
- アプローチ: 人・資本と地域を結ぶ総合研究。地理学、社会学、経営学、経済学など学際的に研究を行ってきました
- 研究テーマ: 女性の社会進出、外国人雇用など国際化(移民研究)、SDGsなど。ヒトの移動、カネの移動に関心を持ちながら、とりわけ、男女の社会進出格差(ジェンダーギャップ)、有給休暇、育児休暇も取れないといった、ワークライフバランスなど研究テーマととして関心をもっております。

産学連携の可能性(アピールポイント)

研究のほか、以下のような職歴を有しております。
上場企業社外取締役、米国系企業3社で5年間勤務(JPMorgan Chase & Co., Bloomberg L.P. and Alliance Benstein L.P.)。中国証券監督管理委員会・中国国家外貨管理局から適格海外機関投資家(QFII)の認可取得(メガバンク系の証券会社では日本初)。みずほフィナンシャルグループの香港現地法人みずほセキュリティーズアジアの初代株式調査長。

外部との連携実績等

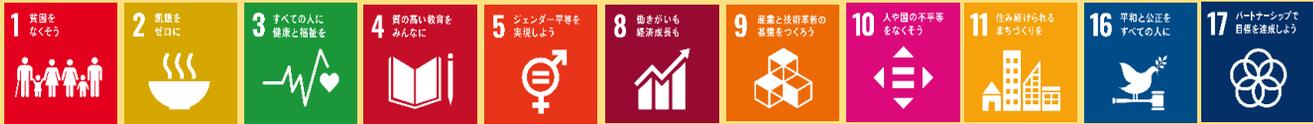
神戸大学、早稲田大学、日本貿易会・経済産業省・ジェトロと関係が深い国際貿易投資研究所の研究者も兼務しております。
このほか、2008年06月～2009年10月 社団法人日本経済調査協議会『国家ファンド』(SWF)に関する専門委員会 専門委員 ■1994年04月～1995年03月 財団法人アジア女性交流・研究フォーラム 海外通信員(フィリピン)

グローバル化の社会情報経済学

研究分野: 社会情報学、情報経済学、経営情報学、国際関係論、情報文化論

キーワード: ネットワーク経済論、地政経済学、産業組織戦略、地域コミュニティ開発

貢献できるSDGsの区分:



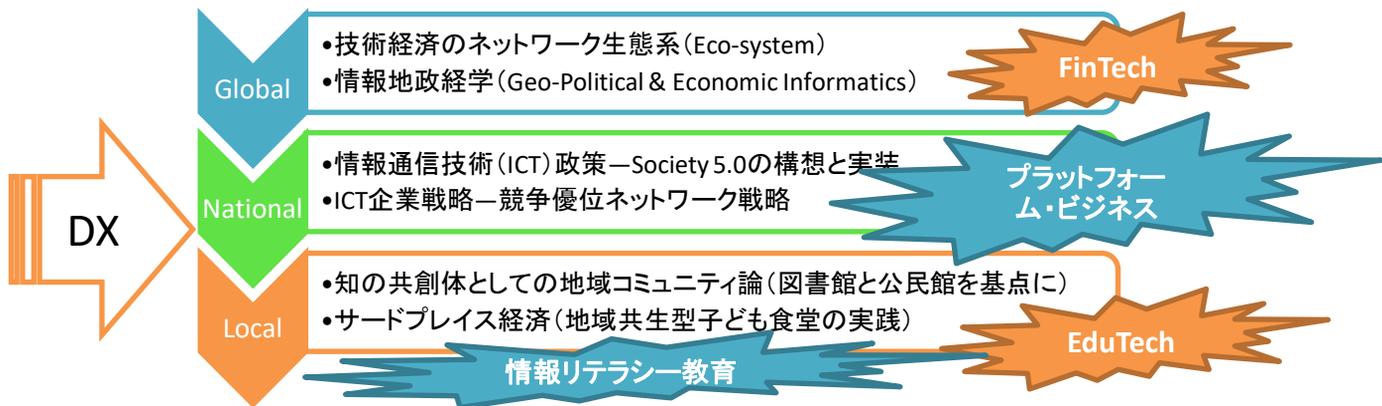
国際社会学部 国際社会学科 准教授 河又 貴洋

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/t-kawamata/>

研究概要

「情報化のパラドックス」: 情報化の進展に伴う社会経済問題の学際的研究

○情報ネットワーク社会経済の基盤であるインフラストラクチャー(固定資本)とインフォストラクチャー(制度・社会規範)に支えられながら、「市場」において動的平衡をもたらす供給(企業活動)と需要(コミュニティ活動)におけるネットワーク形成の政治文化経済学モデルを開発する。



産学連携の可能性(アピールポイント)

- ① 情報通信技術の社会的実装(企業戦略上の導入)に伴う課題と効果の検討
- ② 地域創生事業に関わるコンセプト開発/公共空間のデザインとその活用(公民館の利活用と子ども食堂
事業支援—フードバンク/フードドライブ/フードロス対策)
- ③ 青少年のインターネット利用に関わる情報リテラシー教育・社会的支援の指導
- ④ 離島地域の文化振興と地方創生のネットワーク戦略(地域電子マネー構想等)についての助言
- ⑤ インバウンド需要に対する電子マネーやMaaS構想の展開 他

外部との連携実績等

- ① 「新上五島町人口減少対策のためのガイドライン作成報告書」(新上五島町との相互協定事業, 平成29年3月)
- ② 「シーボルト食堂」(地域共生型子ども食堂)の実践(長与町との連携協定事業, 平成30年度～現在)
- ③ 「青少年のインターネット利用環境づくりフォーラム in 長崎」(内閣府主催, 令和元年11月29日)コーディネータ
- ④ 社会情報学会研究会「SDGsと社会情報学～持続可能な社会構築のための情報学を島から考える」(長崎県・壱岐市・対馬市後援, 令和3年11月13日)企画・司会

経済の安全保障化と国際経済法の構造変化に関する研究

研究分野: 国際法学

キーワード: 国際法、国際経済法、国際紛争処理

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 准教授 平見 健太

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/hira-kent/>

研究概要

現代における国際社会の変容が、国際経済法秩序にもたらす構造変化を研究しています。近年ではとくに、経済の安全保障化の動向に着目しています。

すなわち、異質な政治・経済体制を備えた中国の台頭による国際政治の不安定化や、デジタル革命などの技術革新による軍事用/民生用技術の相対化、さらには近時のCOVID-19の蔓延やロシアのウクライナ侵攻を契機とするサプライチェーンの寸断といった種々の要因を背景に、今日の国際社会では、経済と安全保障の接近・融合傾向、すなわち「経済の安全保障化(securitization of economy)」が急速に進行しています。

かかる動向を受け、諸国の間では国家と市場の関係性に重大な変化が生じつつありますが(市場に対する国家介入の増大とその常態化)、こうした変化が、自由市場の理念を存立基盤とする既存の国際経済法にいかなる構造変化をもたらすのかを解明することが、本研究の目的です。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- ①国際法が、個人や企業といった私的アクターの活動領域に及ぼす影響の分析
- ②経済安全保障に関する国際社会の動向と法的リスクの分析
- ③国際経済紛争の予防・対策、とくに国際紛争処理(国家間で生じる国際裁判)への対応

外部との連携実績等

外務省「国際経済紛争処理研究会」委員、経産省「WTOパネル・上級委員会報告書研究会」委員、(独)経済産業研究所「現代国際通商・投資システムの総合的研究」委員、中曽根平和研究所「経済安全保障研究会」委員、国際経済連携推進センター「新たな通商ルール戦略研究会」委員および「ガバメントアクセスと貿易ルールに関する研究会」委員、国際経済交流財団「ルール志向の国際経済システム研究会」委員など。直近の外部資金獲得実績として、稲盛財団・2021年度稲盛研究助成など。

持続可能な観光を通じた長崎県の地域創生

研究分野: 社会学関連、観光学関連

キーワード: 地域創生、持続可能な発展、国際競争力、課題解決

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 准教授 村上昂音

教員情報URL URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/mura-koon/>

研究概要

私の研究は長崎県の地域創生と持続可能な発展を目指すものである。具体的には、長崎県の地域経済や産業の課題を分析し、地域の振興と産業の振興を促進するための施策を提案する。また、離島や半島地域が直面する課題を抽出し、持続可能な地域振興戦略を構築する。さらに、東アジア地域など海外との連携を視野に入れ、長崎県の国際競争力を高めるための戦略を研究する。

産学連携の可能性(アピールポイント)

- 地域の現状分析と課題抽出: 地域の詳細な分析を行い、直面する課題を特定。
- 国内外の関連事例の調査: 成功事例を調査し、それらを参考に地域振興策や持続可能な戦略を構築。
- 専門家や地域関係者との協力: 地域の企業や自治体、海外との連携を通じて、実際の課題解決につながる施策を提案。

外部との連携実績等

2016年10月ダイバーシティ事業「女性研究者による研究シーズ発表会」TAMA産業活性化協会主催(於中野プラザ・東京都) 共催(東京農工大学、東京外国語大学、その他連携機構)
「中国における公共サービスの民間委託」中野プラザ・東京都 口頭(招待・特別) 国内会議

2024年4月より五島市地域公共交通活性化再生協議会会員に就任

コミュニケーションに関する研究

研究分野: 思想史、社会学、メディア研究、コミュニケーション研究

キーワード: 記号媒体、媒介、記号過程、語用論

貢献できるSDGsの区分:

国際社会学部 国際社会学科 准教授 門部 昌志

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/mombe/>

研究概要

意味の媒体から出発しつつ、メディアとコミュニケーションの基礎を探求する。パースによれば、記号は、人の心の中に、等値な記号ないし発展した記号を創り出す。はじめの記号が創り出したその記号のことを解釈項と呼ぶ。この解釈項はまた記号となるというように、無限に続く。つまり記号と解釈項は無限に連鎖するのである。このような、記号と解釈項の連鎖は、ヤコブソンにおいては、言語内翻訳と呼ばれていた。通常の翻訳は言語間翻訳と呼ばれるのに対して、一つの言語内部における言い換えは言語内翻訳と呼ばれた。ヤコブソンにおける言語内翻訳は、パースにおける記号と解釈項の連鎖に対応するが、無限の過程とは想定されていない点には留意する必要がある。

産学連携の可能性(アピールポイント)

外部との連携実績等

長与町の新しい図書館を想う会会報への寄稿5篇(「国境の街で—ストラスブール国立大学図書館」第9号、2005年;「砕かれたガラスの記憶—ある図書館人の文化運動」第12号、2005年他。)

ストレスと言語学習心理

研究分野: 社会科学、心理学

キーワード: ストレス、学ぶ、スマートウォッチ

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学科 講師(特任) ウィリアム マクドナルド

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/macdonald/>

研究概要

最近完了したウェアラブルデバイス(この場合はスマートウォッチ)を使用した研究(MacDonald, 2022)では、ストレスが学習において重要な役割を果たす可能性が示唆されています。この研究では、言語学習におけるストレスとその役割を扱い、高いストレスと低いストレスの両方を示した学習者の両方が、有害な学習結果を経験したことが示唆されました。

このことは、理論的にも実践的にも多くの示唆を与えており、今後検討する必要があります。これまでの研究では、Horwitzら(1986)の研究に基づいて「言語学習不安」に焦点を当て、ストレスを軽減することを目標としたアプローチを奨励していましたが、今回の新しい研究では、それが望ましくない可能性があり、学習者に不利益をもたらすだけでなく、健康上の結果にもつながる可能性が示唆されました。

さらに、ウェアラブルデバイスを使用した研究手法は、これらの技術が低所得国にとってどれだけ利用しやすいか、また、高所得国がこれらの新しい研究手法から生じる研究を支配する可能性について、多くの倫理的問題を提起しています。

産学連携の可能性(アピールポイント)

現在、ウェアラブルデバイス技術は、Garmin、Fitbit、Appleなどの海外企業が独占しているように見えますが、日本でも関心が高まっている分野であり、幅広い学問分野からの産学連携の可能性があると思われます。

外部との連携実績等

上記の問題は、SAJU(南アフリカ-日本大学フォーラム)会議でのプレゼンテーションで議論するために提出されており、この分野での将来の研究に関して何らかの国際協力が行われることが期待されません。

Research on Trends of Etruscan and Roman Art (エトルリアおよびローマ美術の動向に関する研究)

研究分野: Classics(古典)、Art History(美術史)、Archaeology(考古学)、Ancient History(古代史)、Cultural Studies(文化研究)

キーワード: Funerary Art(葬送美術)、Mythology(神話)、Sculpture(彫刻)、Iconography(イコノグラフィ)、Cultural Heritage(文化遺産)

貢献できるSDGsの区分:



国際社会学部 国際社会学部 講師 (特任) Bronwen MacDonald
教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/bron-macd/>

研究概要

This research analyzes the iconography of torches in Etruscan and Roman funerary art, exploring their symbolic meanings and impact on cultural heritage. Using visual analysis, archaeological data, and historical texts, the study investigates the use and evolution of torch imagery. Preliminary findings suggest torches symbolized transition and illumination in both cultures, highlighting cross-cultural influences and the blending of artistic techniques and motifs.

この研究は、エトルリアおよびローマの葬送美術における松明のイコノグラフィを分析し、その象徴的な意味と文化遺産への影響を探ります。視覚分析、考古学データ、および歴史文献を使用して、松明の使用と進化を調査します。初期の発見は、葬送美術における松明が、エトルリアおよびローマ文化の両方で移行と啓示の象徴として機能していたことを示唆しています。この研究は、松明のイコノグラフィの文化間の影響と、美術技術およびモチーフの融合を強調しています。

産学連携の可能性 (アピールポイント)

- **Collaborate with Museums:** Curate exhibitions of Etruscan and Roman art to increase public awareness. (美術館と提携してエトルリアおよびローマ美術の展示を企画し、古代美術への認識を高めます。)
- **Develop Educational Programs:** Create courses on ancient art, emphasizing symbolic and cultural significance. (教育プラットフォームと連携して、古代の象徴的・文化的重要性を強調するコースを開発します。)
- **Consulting for Conservation:** Provide expertise to preserve and restore Etruscan and Roman artifacts. (エトルリアおよびローマの遺物を保存・修復するための専門知識を提供します。)

外部との連携実績等

- **Nepos' *Life of Hannibal* Digital Renewal Project for South African Students:** Leading the digitization of a 1994 multilingual Latin textbook at Stellenbosch University. (南アフリカの学生のためのネポス『ハンニバル伝』デジタルリニューアルプロジェクト: 1994年の多言語ラテン語教科書のデジタル化をリード。)
- **South African Classical Antiquities (SACA) Database:** Cataloging antiquities in South Africa to enhance online accessibility. (南アフリカ古典古代物データベース (SACA): 南アフリカの古物コレクションをカタログ化し、オンラインでのアクセスを向上。)